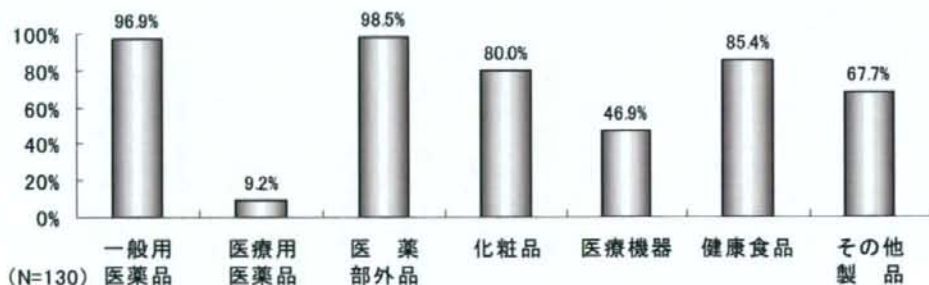


④ 薬種商販売業

薬種商販売業の販売品目は、医薬部外品 98.5%が最も多く、次いで一般用医薬品 96.9%、健康食品 85.4%であった。

図表 4-8 販売品目（薬種商販売業）



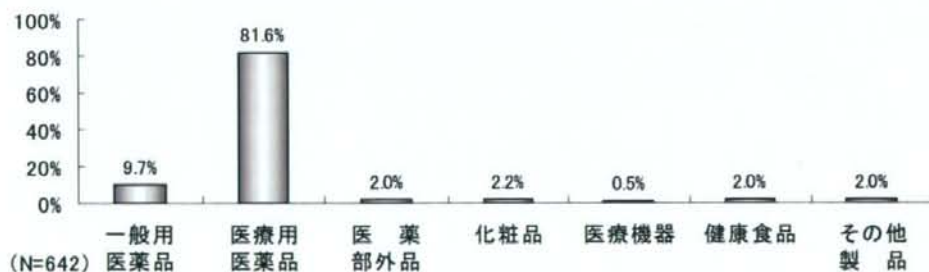
5 売上高（構成割合）・処方せん枚数

① 保険薬局

保険薬局の平成 18 年度の 1 施設当たり平均売上高は 116,521,534 円 (N=416) であり、売上高の 81.6%が医療用医薬品によるものであった (N=642)。

なお、平成 19 年 6 月 1 カ月の 1 施設当たり平均受付処方せん枚数は 1,294.1 枚 (N=707) であった。

図表 4-9 売上高の構成割合（保険薬局）

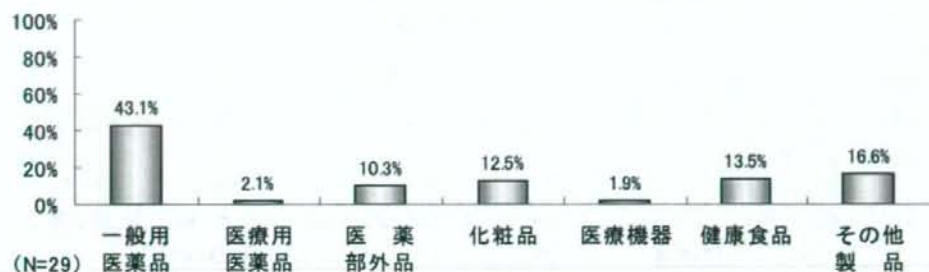


② その他の薬局

その他の薬局の平成 18 年度の 1 施設当たり平均売上高は 50,238,158 円 (N=19) であり、売上高の 43.1%が一般用医薬品によるものであった (N=29)。

なお、平成 19 年 6 月 1 カ月の 1 施設当たり平均受付処方せん枚数は 1.9 枚 (N=27) であった。

図表 4-10 売上高の構成割合 (その他の薬局)

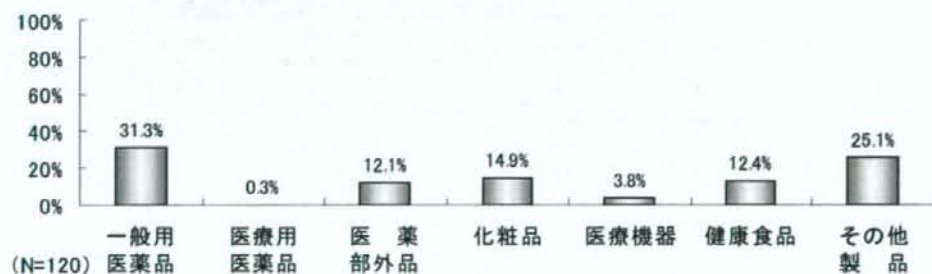


③ 一般販売業

一般販売業の平成 18 年度の 1 施設当たり平均売上高は 142,315,708 円 (N=72) であり、売上高の 31.3%が一般用医薬品によるものであった (N=120)。

なお、平成 19 年 6 月 1 カ月の 1 施設当たり平均受付処方せん枚数は 13.4 枚 (N=111) であった。

図表 4-11 売上高の構成割合 (一般販売業)

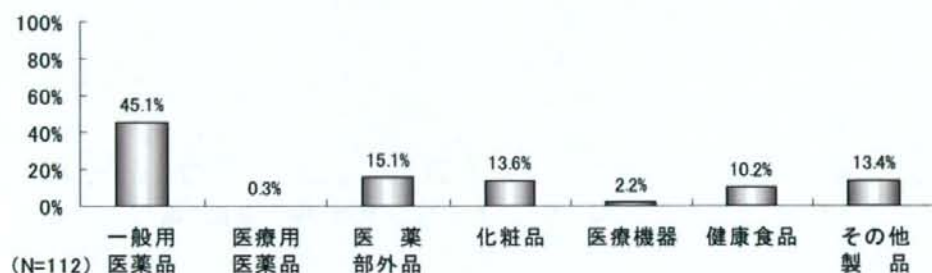


④ 薬種商販売業

薬種商販売業の平成 18 年度の 1 施設当たり平均売上高は 62,453,349 円 (N=89) であり、売上高の 45.1% が一般用医薬品によるものであった (N=112)。

なお、平成 19 年 6 月 1 カ月の 1 施設当たり平均受付処方せん枚数は 0.0 枚 (N=64) であった。

図表 4-12 売上高の構成割合 (薬種商販売業)



6 売場面積

1 施設当たり売場面積としては、一般販売業の 237.5 m² が最も大きく、保険薬局の 72.6 m² が最も小さくなっていった。

なお、保険薬局では、総面積のうち調剤関連部分が 41.1% を占めていた。

図表 4-13 売場面積の状況

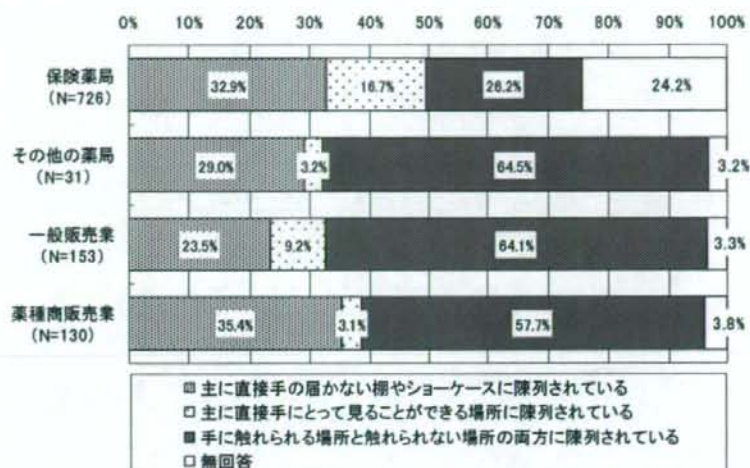
	1 施設当たり	
	総売場面積	調剤関連部分
保険薬局 (N=611)	72.7 m ²	29.9 m ²
その他の薬局 (N=18)	138.8 m ²	9.7 m ²
一般販売業 (N=59)	237.5 m ²	2.1 m ²
薬種商販売業 (N=31)	158.3 m ²	0.3 m ²

7 販売・陳列方法

① 一般用医薬品

一般用医薬品の販売・陳列方法をみると、「主に直接手にとって見ることができる場所に陳列されている」との回答が、保険薬局で16.7%となっていた。

図表 4-14 一般用医薬品の販売・陳列方法



② H₂ブロッカー

一般用医薬品のうち H₂ ブロッカーの販売・陳列方法をみると、保険薬局の 56.9%、薬種商販売業の 88.5%が扱っていないが、その他の薬局と一般販売業では「主に直接手の届かない棚やショーケースに陳列されている」との回答がそれぞれ 77.4%、81.0%となっていた。

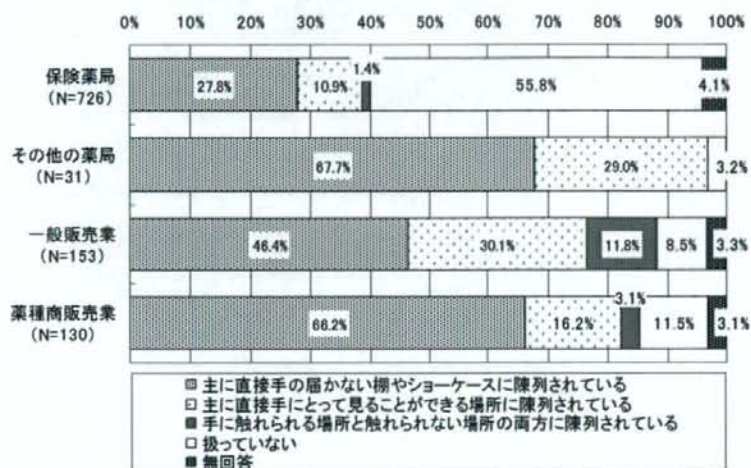
図表 4-15 H₂ブロッカーの販売・陳列方法



③ 漢方エキス製剤

漢方エキス製剤の販売・陳列方法をみると、保険薬局の55.8%が扱っていないが、その他の薬局と薬種商販売業では「主に直接手の届かない棚やショーケースに陳列されている」との回答がそれぞれ67.7%、66.2%であった。なお、一般販売業では「手に触れられる場所と触れられない場所の両方に陳列されている」との回答が11.8%であった。

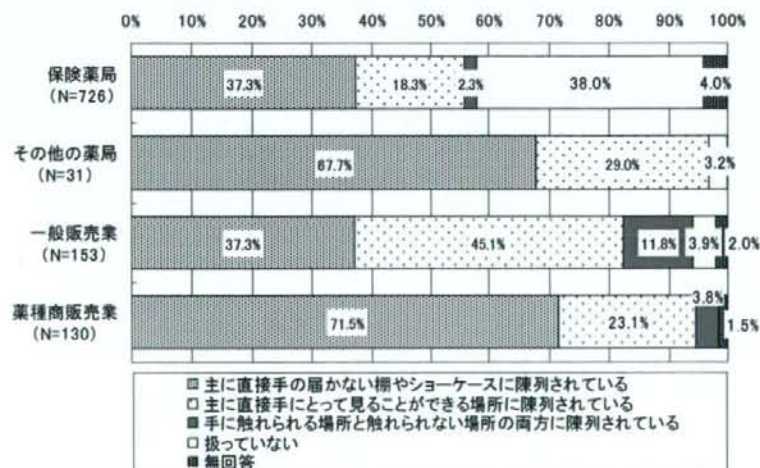
図表 4-16 漢方エキス製剤の販売・陳列方法



④ 風邪薬

風邪薬の販売・陳列方法をみると、その他の薬局と薬種商販売業では「主に直接手の届かない棚やショーケースに陳列されている」との回答がそれぞれ67.7%、71.5%であった。一方、一般販売業では「主に直接手にとって見ることができる場所に陳列されている」との回答が45.1%であった。

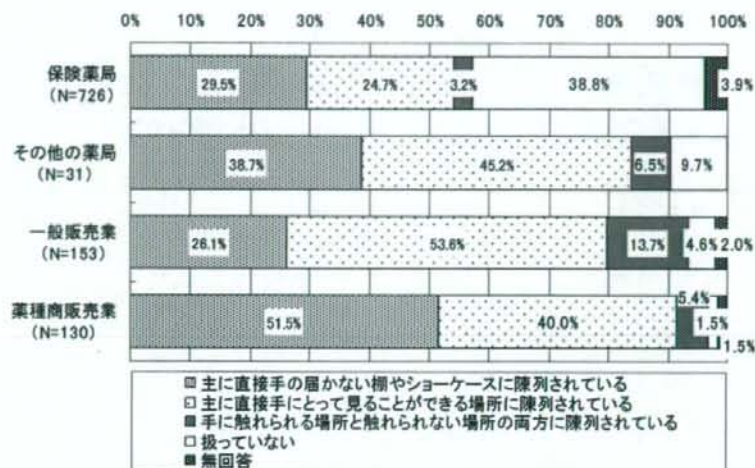
図表 4-17 風邪薬の販売・陳列方法



⑤ ビタミン剤

ビタミン剤の販売・陳列方法をみると、薬種商販売業では「主に直接手の届かない棚やショーケースに陳列されている」との回答が 51.5%であった。一方、一般販売業では「主に直接手にとって見ることができる場所に陳列されている」との回答が 53.6%であった。

図表 4-18 ビタミン剤の販売・陳列方法



8 営業日・定休日

営業状況を見ると、一般販売業の66.7%が「年中無休」であった。また、薬種商販売業、その他の薬局でもそれぞれ33.1%、32.3%が「年中無休」であった。一方で、保険薬局では「年中無休」は5.8%にすぎなかった。

なお、保険薬局の82.2%が週5日以上の営業であった。

図表 4-19 営業状況

		保 険 薬 局 (N=726)		そ の 他 の 薬 局 (N=31)		一 般 販 売 業 (N=153)		薬 種 商 販 売 業 (N=130)	
年中無休		42	5.8%	10	32.3%	102	66.7%	43	33.1%
週	1.0日 営業	4	0.6%	—	0.0%	—	0.0%	1	0.8%
	1.5日 営業	3	0.4%	—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%
	2.0日 営業	1	0.1%	—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%
	3.5日 営業	4	0.6%	—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%
	4.0日 営業	7	1.0%	—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%
	4.5日 営業	34	4.7%	—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%
	5.0日 営業	247	34.0%	2	6.5%	9	5.9%	5	3.8%
	5.5日 営業	126	17.4%	—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%
	6.0日 営業	216	29.8%	12	38.7%	23	15.0%	37	28.5%
	6.5日 営業	8	1.1%	—	0.0%	—	0.0%	1	0.8%
無 回 答		—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%	1	0.8%
休日は不定期		30	4.1%	7	22.6%	18	11.8%	41	31.5%
無 回 答		4	0.6%	—	0.0%	1	0.7%	1	0.8%

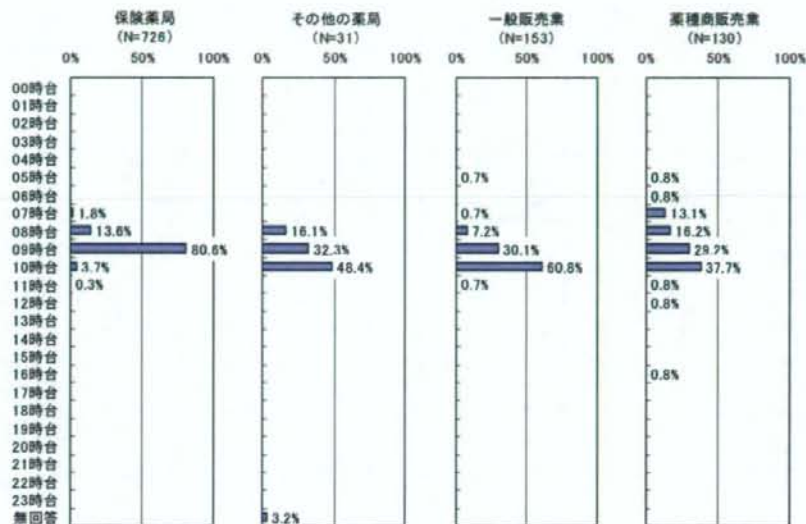
9 営業時間帯

① 平日

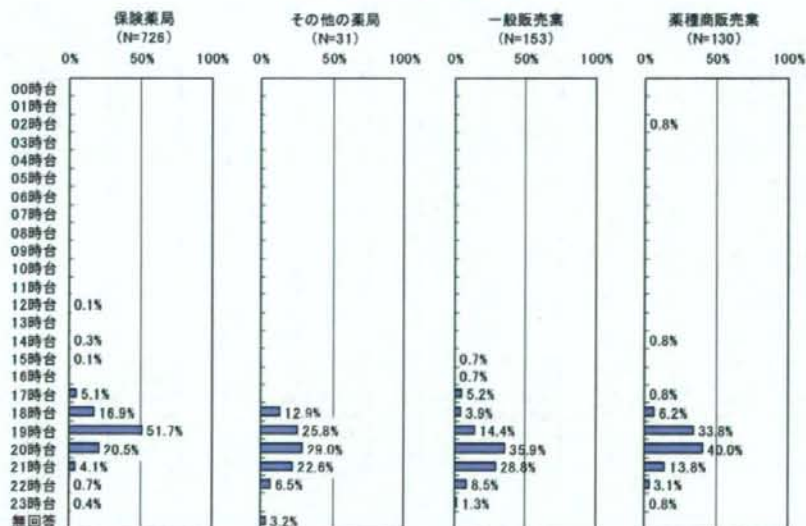
平日の営業時間帯について、施設種類ごとの平均開業時間及び平均終業時間は下記の通りであった。

- 保険薬局 : 平均開業時間 8.9 時 平均終業時間 19.1 時
- その他の薬局 : 平均開業時間 9.4 時 平均終業時間 19.9 時
- 一般販売業 : 平均開業時間 9.6 時 平均終業時間 20.0 時
- 薬種商販売業 : 平均開業時間 9.1 時 平均終業時間 19.6 時

図表 4-20 開業時間



図表 4-21 終業時間

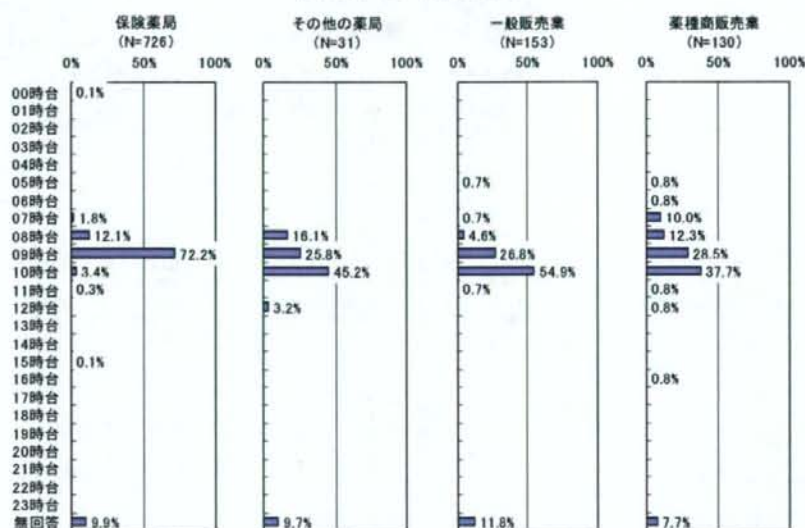


② 土曜日

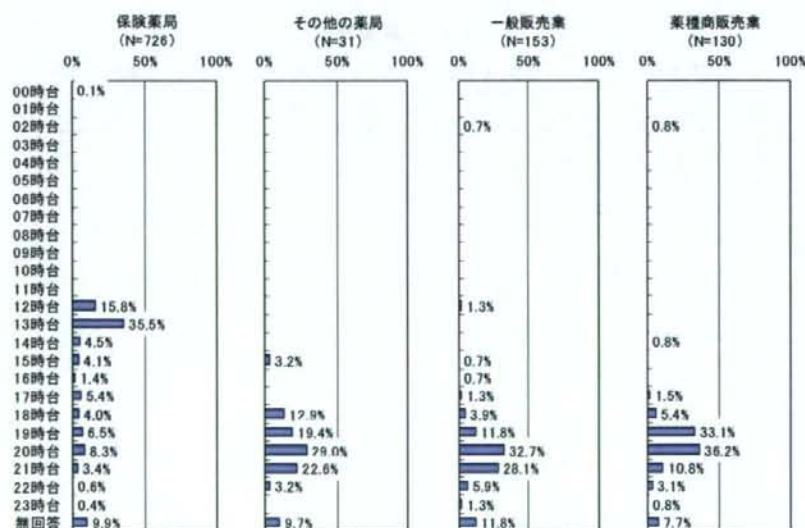
土曜日の営業時間帯について、施設種類ごとの平均開業時間及び平均終業時間は下記の通りであった。

- 保険薬局 : 平均開業時間 8.9時 平均終業時間 15.0時
- その他の薬局 : 平均開業時間 9.5時 平均終業時間 19.7時
- 一般販売業 : 平均開業時間 9.6時 平均終業時間 19.9時
- 薬種商販売業 : 平均開業時間 9.2時 平均終業時間 19.5時

図表 4-22 開業時間



図表 4-23 終業時間



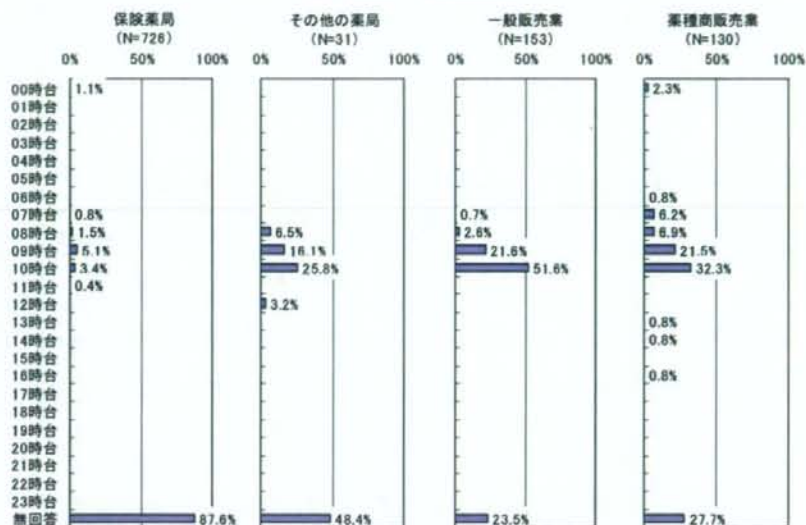
③ 日曜日

日曜日の営業時間帯について、施設種類ごとの平均開業時間及び平均終業時間は下記の通りであった。

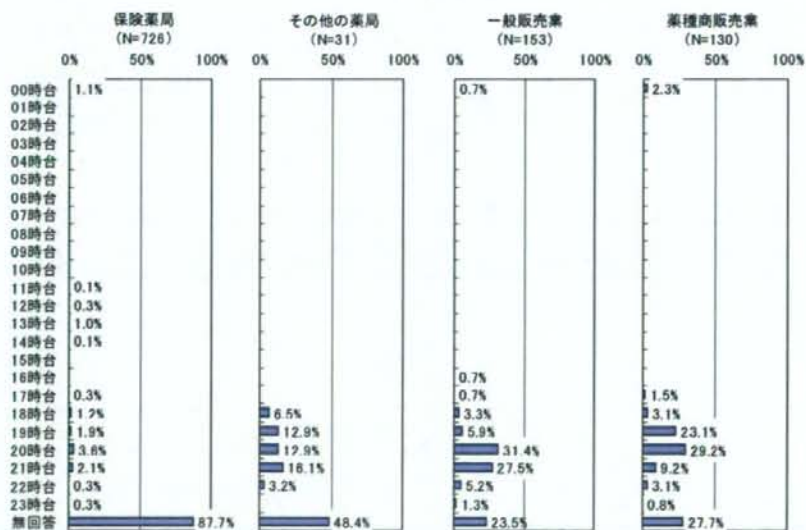
- 保険薬局 : 平均開業時間 8.3 時 平均終業時間 17.2 時
- その他の薬局 : 平均開業時間 9.7 時 平均終業時間 20.0 時
- 一般販売業 : 平均開業時間 9.7 時 平均終業時間 20.2 時
- 薬種商販売業 : 平均開業時間 9.1 時 平均終業時間 19.1 時

※保険薬局の 87.6%、その他の薬局の 48.4%は無回答であり、定休日の可能性あり。

図表 4-24 開業時間



図表 4-25 終業時間



10 従業員数

施設種類ごとの1施設当たり平均従業員数の状況は図表4-26～4-29の通りであった。従業員1人当たり売場面積をみると、保険薬局は14.5㎡と最も小さく、その他の薬局と一般販売業ではそれぞれ50.7㎡、45.6㎡と40㎡を超えていた。

図表 4-26 1施設当たり従業員数（常勤換算）の状況（保険薬局）

N=576	薬 剤 師	そ の 他 職 員	合 計
常 勤 職 員	2.2 人	1.2 人	3.4 人
非 常 勤 職 員	1.1 人	1.2 人	2.3 人
合 計	3.4 人	2.4 人	5.7 人
従業員1人当たり売場面積 (N=506)			14.5 ㎡

図表 4-27 1施設当たり従業員数（常勤換算）の状況（その他の薬局）

N=19	薬 剤 師	そ の 他 職 員	合 計
常 勤 職 員	1.3 人	1.1 人	2.3 人
非 常 勤 職 員	0.2 人	1.1 人	1.3 人
合 計	1.5 人	2.2 人	3.7 人
従業員1人当たり売場面積 (N=17)			50.7 ㎡

図表 4-28 1施設当たり従業員数（常勤換算）の状況（一般販売業）

N=89	薬 剤 師	そ の 他 職 員	合 計
常 勤 職 員	1.2 人	2.3 人	3.5 人
非 常 勤 職 員	0.6 人	2.0 人	2.5 人
合 計	1.8 人	4.3 人	6.0 人
従業員1人当たり売場面積 (N=78)			45.6 ㎡

図表 4-29 1施設当たり従業員数（常勤換算）の状況（薬種商販売業）

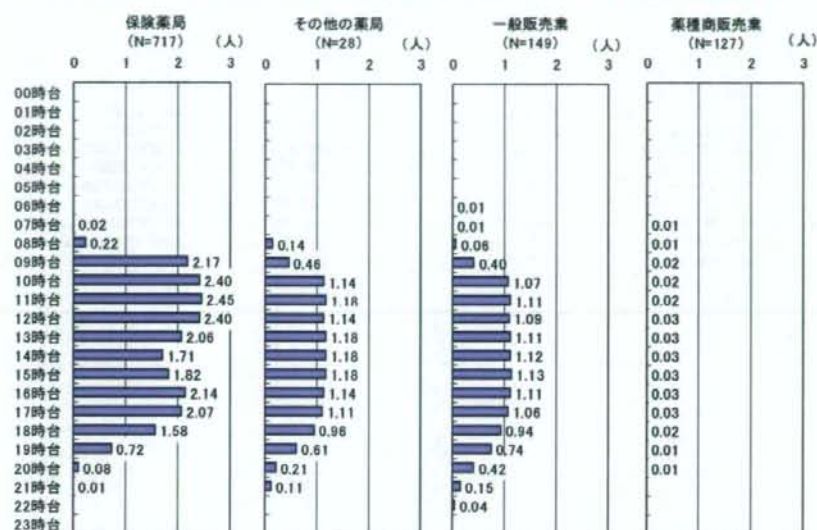
N=63	薬 剤 師	そ の 他 職 員	合 計
常 勤 職 員	0.0 人	2.2 人	2.2 人
非 常 勤 職 員	0.0 人	1.5 人	1.5 人
合 計	0.0 人	3.7 人	3.7 人
従業員1人当たり売場面積 (N=58)			32.5 ㎡

11 平日の従業員のシフト

平日の営業時間帯は、保険薬局では薬剤師が2人程度、その他の薬局と一般販売業では1人程度、薬種商販売業では薬種商が1人程度従事していた。また、その他の職員も1～2人程度が従事していた。

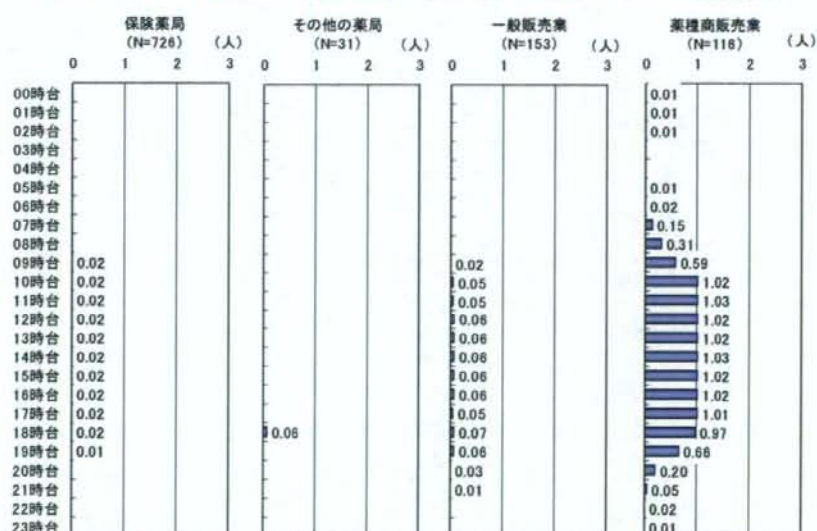
① 薬剤師

図表 4-30 1施設当たり薬剤師数（実人数）の状況；平日の時間帯別



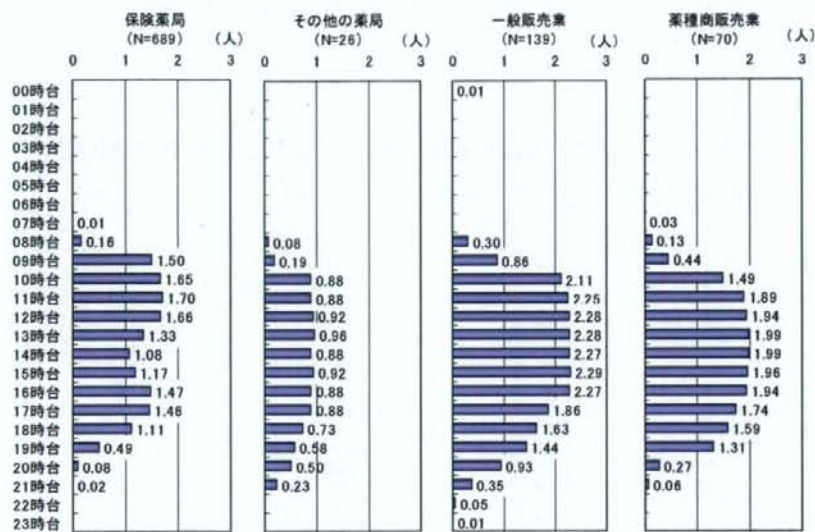
② 薬種商

図表 4-31 1施設当たり薬種商数（実人数）の状況；平日の時間帯別



③ その他の職員

図表 4-32 1施設当たり薬種商数（実人数）の状況；平日の時間帯別



V 秋田県における調査結果の概要

1 回収状況

回収状況は図表 3-1 の通りであった。

図表 3-1 回収状況

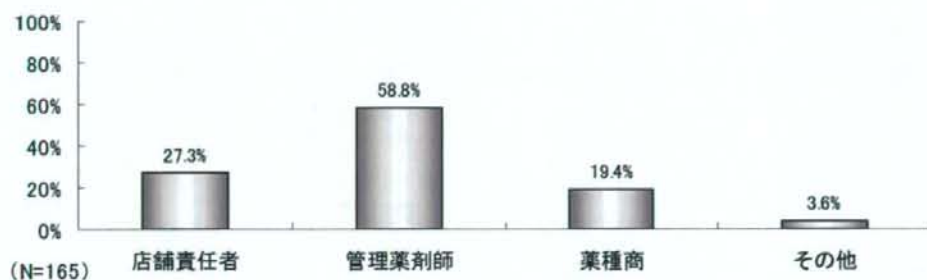
	発送数	回収数	回収率
秋 田 県	749 件	165 件	22.0%

2 調査結果

1 調査票の回答者

調査票の回答者の 58.8% は管理薬剤師であった。

図表 3-2 調査票の回答者【複数回答】



2 開設主体

回答施設の 75.8% は法人であった。

図表 3-3 開設主体

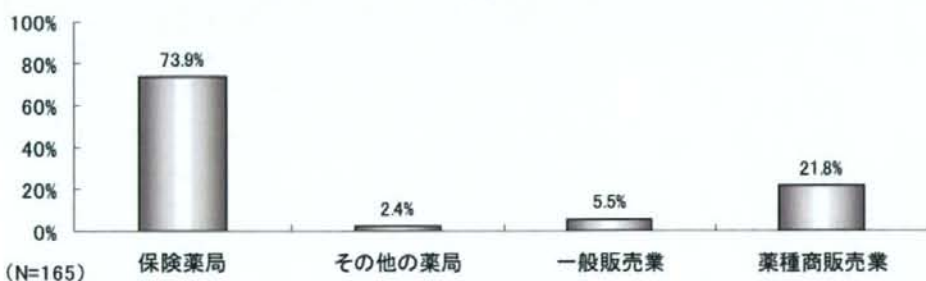


3 薬局・販売業の種類

回答施設の73.9%が保険薬局であった。

なお、次項より「保険薬局」「その他の薬局」「一般販売業」「薬種販売業」の区分は、複数回答している6施設を除いて集計した結果である。

図表 3-4 薬局・販売業の種類【複数回答】

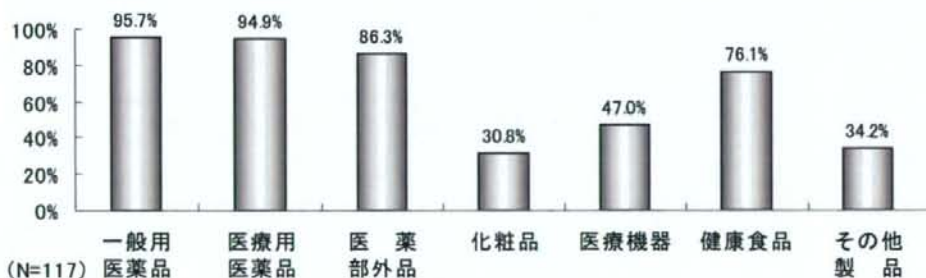


4 販売品目

① 保険薬局

保険薬局の販売品目は、一般用医薬品95.7%が最も多く、次いで医療用医薬品94.9%、医薬部外品86.3%であった。

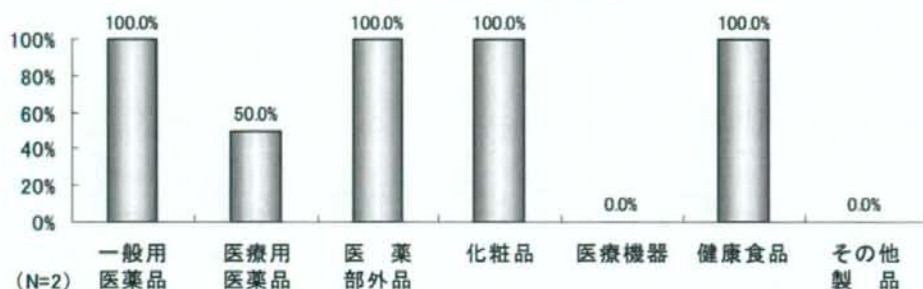
図表 3-5 販売品目（保険薬局）



② その他の薬局

その他の薬局の販売品目は、一般用医薬品、医薬品部外品、化粧品、健康食品がそれぞれ 100.0%であった。

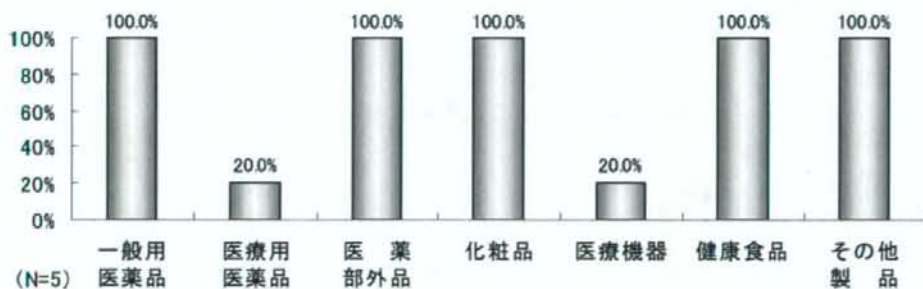
図表 3-6 販売品目（その他の薬局）



③ 一般販売業

一般販売業の販売品目は、一般用医薬品、医薬品部外品、化粧品、健康食品、その他製品がそれぞれ 100.0%であった。

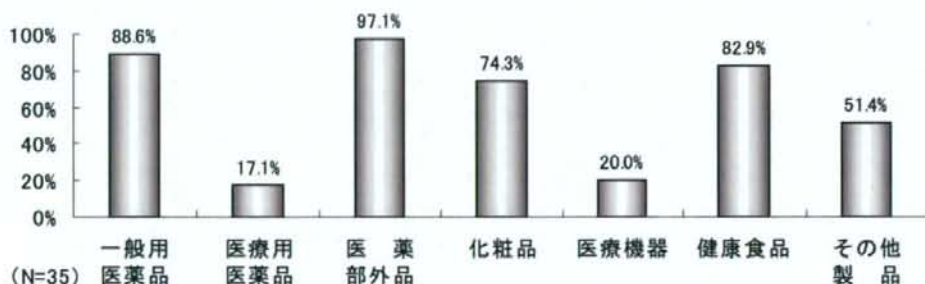
図表 3-7 販売品目（一般販売業）



④ 薬種商販売業

薬種商販売業の販売品目は、医薬部外品 97.1%が最も多く、次いで一般用医薬品 88.6%、健康食品 82.9%であった。

図表 3-8 販売品目（薬種商販売業）



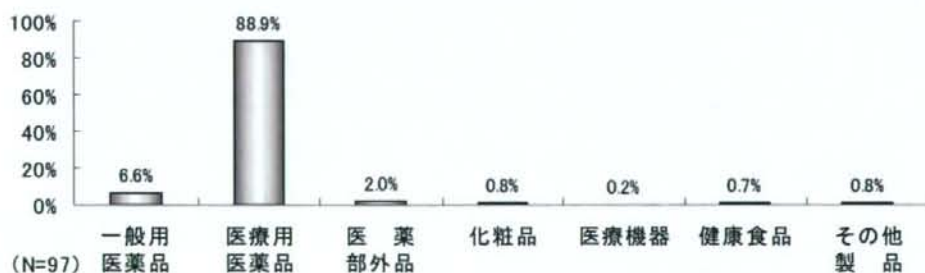
5 売上高（構成割合）・処方せん枚数

① 保険薬局

保険薬局の平成 19 年度の 1 施設当たり平均売上高は 148,317,098 円 (N=88) であり、売上高の 88.9%が医療用医薬品によるものであった (N=97)。

なお、平成 20 年 6 月 1 カ月の 1 施設当たり平均受付処方せん枚数は 1,652.2 枚 (N=115) であった。

図表 3-9 売上高の構成割合（保険薬局）

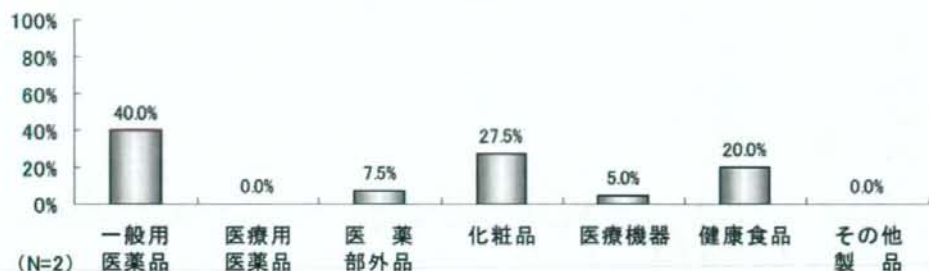


② その他の薬局

その他の薬局の平成 19 年度の売上高の 40.0%が一般用医薬品によるものであった (N=2)。

なお、平成 20 年 6 月 1 カ月の 1 施設当たり平均受付処方せん枚数は 0.0 枚 (N=2) であった。

図表 3-10 売上高の構成割合 (その他の薬局)

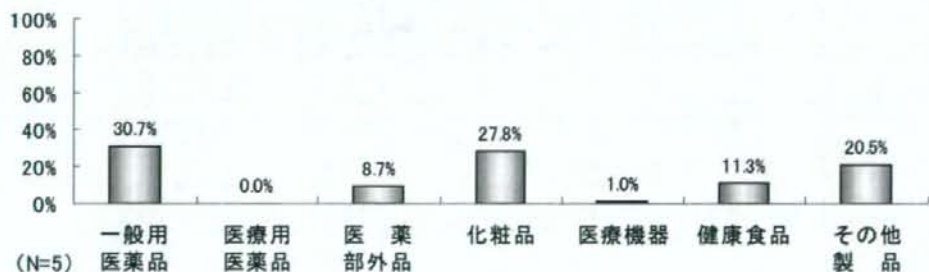


③ 一般販売業

一般販売業の平成 19 年度の 1 施設当たり平均売上高は 495,250,000 円 (N=4) であり、売上高の 30.7%が一般用医薬品によるものであった (N=5)。

なお、平成 20 年 6 月 1 カ月の 1 施設当たり平均受付処方せん枚数は 0.0 枚 (N=5) であった。

図表 3-11 売上高の構成割合 (一般販売業)

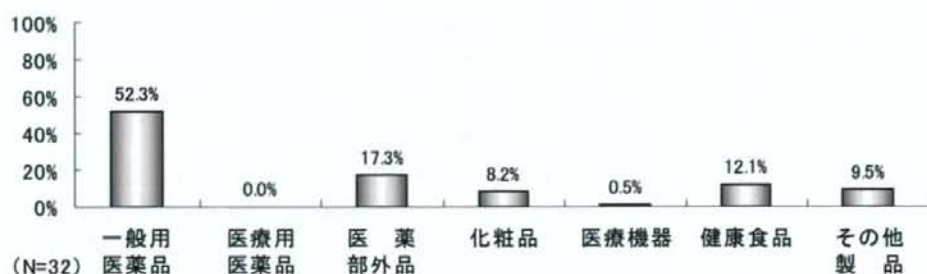


④ 薬種商販売業

薬種商販売業の平成19年度の1施設当たり平均売上高は58,641,960円(N=26)であり、売上高の52.3%が一般用医薬品によるものであった(N=32)。

なお、平成19年6月1カ月の1施設当たり平均受付処方せん枚数は0.0枚(N=16)であった。

図表 3-12 売上高の構成割合（薬種商販売業）



6 売場面積

1施設当たり売場面積としては、一般販売業の554.0㎡が最も大きく、その他の薬局の56.0㎡が最も小さくなっていった。

なお、保険薬局では、総面積のうち調剤関連部分が46.4%を占めていた。

図表 3-13 売場面積の状況

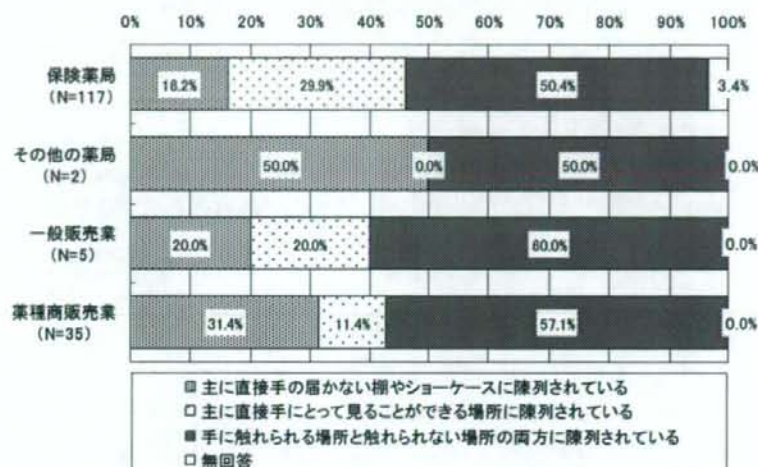
	1施設当たり	
	総売場面積	調剤関連部分
保険薬局 (N=106)	84.3 ㎡	39.1 ㎡
その他の薬局 (N=1)	56.0 ㎡	15.0 ㎡
一般販売業 (N=4)	554.0 ㎡	0.0 ㎡
薬種商販売業 (N=10)	237.9 ㎡	0.0 ㎡

7 販売・陳列方法

① 一般用医薬品

一般用医薬品の販売・陳列方法をみると、「主に直接手にとって見ることができる場所に陳列されている」との回答が、保険薬局と一般販売業でそれぞれ29.9%、20.0%となっていた。

図表 3-14 一般用医薬品の販売・陳列方法



② H₂ブロッカー

一般用医薬品のうちH₂ブロッカーの販売・陳列方法をみると、保険薬局の23.1%、薬種商販売業の80.0%が扱っていないが、その他の薬局と一般販売業では「主に直接手の届かない棚やショーケースに陳列されている」との回答がそれぞれ100.0%、60.0%となっていた。

図表 3-15 H₂ブロッカーの販売・陳列方法

